

JF共済 平成22年度「事業概要」のご報告

JF共済の事業概要（平成23年3月末）をご報告いたします。これからも、JF共済は相互扶助の理念にもとづき、組合員、ご契約者のみなさまの暮らしの安心としあわせづくりを追求してまいります。

JF共済（JF共水連）の健全性・安定性は…

支払余力（ソルベンシー・マージン）比率は、 経営の健全な水準を大きく超えています

平成22年度の支払余力（ソルベンシー・マージン）比率は東日本大震災による多額の支払備金を計上したことから、前年度より支払余力が減少し、544.0%となっていますが、経営の健全な水準とされる200%を大きく超えており、十分な支払余力を確保しています。

*支払余力（ソルベンシー・マージン）比率とは、通常の予測を超えて発生する諸リスクに備えて、どのくらいの支払余力（ソルベンシー・マージン）があるかを判断するための行政監督上の指標の一つです。

なお、この比率は、JF共水連が生命共済と損害共済を兼営していることから、生命保険や損害保険を単営している民間保険会社のソルベンシー・マージン比率と単純に比較することはできません。

支払余力（ソルベンシー・マージン）比率

544.0%

●支払余力（ソルベンシー・マージン）比率（%）

$$= \frac{\text{支払余力（ソルベンシー・マージン）総額}}{\text{リスクの合計額} \times \frac{1}{2}} \times 100$$

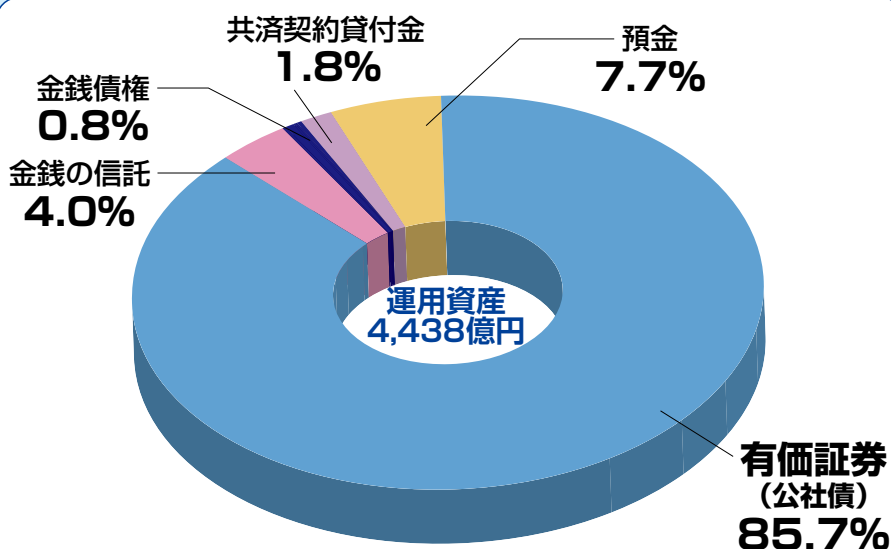
参考：21年度 922.1%、20年度 654.7%

長期安定的な資産運用につとめています

総資産

4,674 億円

JF共水連は、総資産のうち4,438億円の運用資産について、公社債や系統預金を中心に長期安定的な運用を行っています。





平成22年度 実績概要のご報告

多くの方を守る保障

長期共済の新契約高(保障金額)

2,404億円

長期共済の保有契約件数

35万件

長期共済の保有契約高(保障金額)

2兆7,475億円

長期共済の受入共済掛金

520億円

短期共済の保有契約高(保障金額)

2兆7,979億円

短期共済の受入共済掛金

43億円

- 長期共済の新契約高 …………… 平成22年度に新たにご契約いただいたチョコーとくらしの保障金額の合計金額です。
- 長期共済の保有契約高 …………… 平成22年度までにご契約いただいたチョコーとくらしの保障金額の合計金額です。
- 短期共済の保有契約高 …………… 平成22年度までにご契約いただいたノリコー、ダンシン、カサイの保障金額の合計額です。
- 長期共済の受入共済掛金 …………… 平成22年度に組合で受け入れたチョコーとくらしの受入共済掛金の合計額です。
- 短期共済の受入共済掛金 …………… 平成22年度に組合で受け入れたノリコーとカサイの受入共済掛金の合計額です。

この1年間でお役に立った共済金

事故・満期 合計で **519億円**

普通厚生共済
(チョコー)

事故時のお支払い 満期時のお支払い

113億円 279億円

生活総合共済
(くらし)

事故時のお支払い 満期時のお支払い

4億円 51億円

乗組員厚生共済
(ノリコー)

お支払い

15億円

その他共済計
(カサイ他)

お支払い

57億円

東日本大震災による支払共済金見込額

240億円

生命共済

90億円

損害共済

150億円

JF共済は、東日本大震災による支払見込額を生命共済(チョコーとノリコー)90億円、損害共済(くらしとカサイ)においては150億円の合計240億円と見込んでいます。

240億円の支払財源については、再保険による回収、異常危険準備金及び特別積立金等により十分に対応可能です。

○東日本大震災による支払共済金は、平成23年度のお支払いとなるため、519億円には含みません。